



じもと

HOLDINGS

じもとホールディングス
ミニディスクロージャー誌



きらやか銀行



仙台銀行

2013.3



宮城県と山形県は、高速交通網の整備により、産業経済・生活文化・危機対応等、あらゆる面で密接な交流が活発化しており、今後も県境を超えた同一経済圏として発展することが期待されています。

当グループは、宮城・山形両県にまたがる新たな金融グループとして、両県の人・情報・産業を「つなぐ」架け橋となり、共同商品の開発やサービスの向上、経営資源の戦略的な配分を通じて、多面的な金融サービスを創造・提供し、東日本大震災からの復興と地元経済活性化に貢献してまいります。

じもとホールディングス

- 設立年月日 平成24年10月1日
- 本社所在地 仙台市青葉区一番町二丁目1番1号

- 資本金 17,000百万円
- 上場取引所 東京証券取引所

きらやか銀行

- 本店所在地 山形市旅籠町三丁目2番3号
- 電話番号 023-631-0001(代表)
- 設立年月日 平成19年5月7日
- 資本金 227億円
- 預金・譲渡性預金 12,414億円
- 貸出金 9,318億円
- 従業員数 935名
- 店舗数 117カ店(県内99カ店、県外18カ店)^(注)

^(注) ブランチ・イン・ブランチ(店舗内店舗)形式での店舗統合による実質店舗数は80カ店(うち出張所3カ店)(県内63カ店、県外17カ店)、インターネット支店を除く。

- ホームページ <http://www.kirayaka.co.jp/>

仙台銀行

- 本店所在地 仙台市青葉区一番町二丁目1番1号
- 電話番号 022-225-8241(代表)
- 設立年月日 昭和26年5月25日
- 資本金 224億85百万円
- 預金・譲渡性預金 9,640億円
- 貸出金 5,573億円
- 従業員数 729名
- 店舗数 72カ店^(注)

^(注) ブランチ・イン・ブランチ(店舗内店舗)形式での店舗統合による実質店舗数は61カ店(うち出張所4カ店)。

- ホームページ <http://www.sendaibank.co.jp/>

Profile

ごあいさつ

平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年10月、株式会社きらやか銀行と株式会社仙台銀行は、共同持株会社の株式会社じもとホールディングスを設立し、経営統合いたしました。

私たち「じもとグループ」は、宮城と山形の「人・情報・産業」をつなぐ新たな金融グループとして、中小企業の皆様、そして地域経済の復興と発展に積極的に貢献することを経営方針としております。

今年度からは「本業支援」をグループ共通の営業戦略とし、お客さまの話をお聴きし、様々なニーズや課題等を共有しながら一緒に考えて解決するべく、グループ役職員が一丸となって人材育成や組織づくり、お客さまへの訪問活動等をさらに活発に行っております。

本誌では平成25年3月期のグループ業績とともに、この「本業支援」の取り組み事例もご紹介しておりますので是非ご高覧ください。

皆様方におかれましては、今後とも「じもとグループ」にご理解とご支援を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

平成25年6月

株式会社じもとホールディングス
取締役社長 栗野 学



じもと
HOLDINGS

目次

ごあいさつ	01
じもとグループの経営計画	02
じもとグループが取り組む “本業支援”	03
じもとトピックス	04
じもとホールディングス 業績ハイライト	05
地域の皆様とともに	
きらやか銀行の本業支援	06
トピックス	07
仙台銀行の本業支援	08
トピックス	09
業績ハイライト	
きらやか銀行	10
仙台銀行	12
株主の皆様へ	14

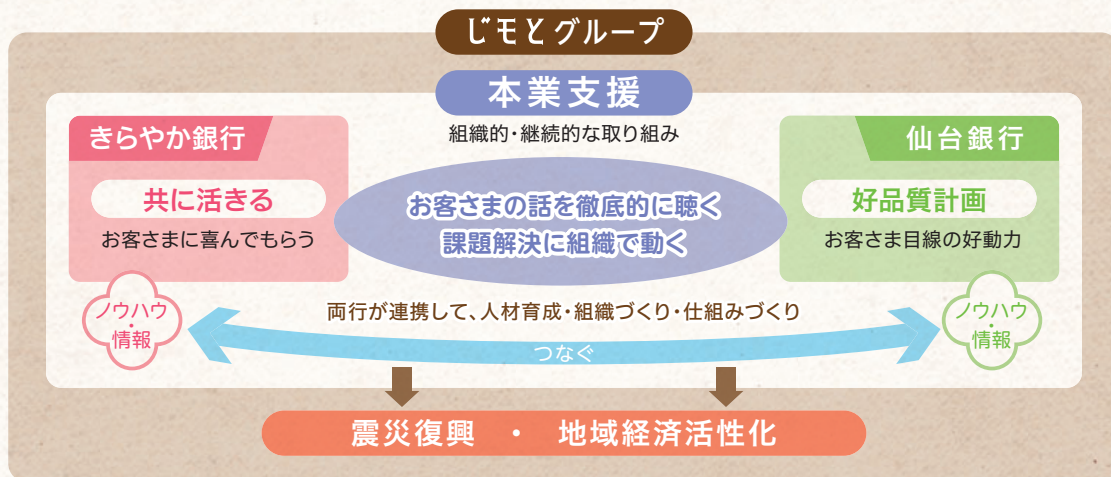
じもとグループの経営計画

じもとグループの中長期的な戦略展開

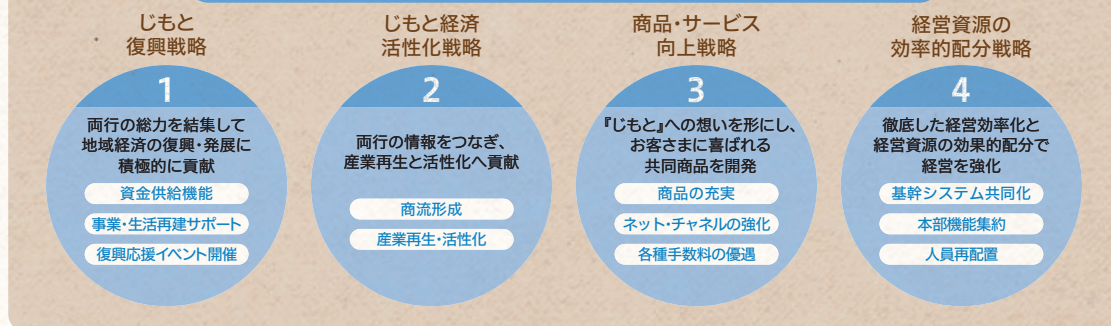
中小企業の皆様のためにできること = 【本業支援】を両行で展開

じもとグループは、人材育成や組織づくりを計画的に進め、宮城と山形の「人・情報・産業」をつなぎ、中小企業のお客さまへの「本業支援」を中長期的に展開してまいります。

お客さまの経営課題を徹底的にお聴きし、グループをあげて課題解決に向けて取り組み、復興支援やビジネスマッチング等を通じ、地域経済の復興と発展に貢献する方針です。



じもとグループのじもとを元気にする4つの戦略



じもとグループが取り組む“本業支援”

～お客さまの経営課題を解決するために、私たちはともに考え、行動します～

voice

中小企業のために力を尽くすこと

「世のため、人のため」は、銀行に勤務する私のモチベーションです。

現在、平成25年4月に新設された本業支援推進部に所属し、営業店と一緒に中小企業の皆様が抱える経営課題に取り組んでおります。

お客さまの喜びが銀行員としての喜びであり、これからもお客さまのために力を尽くしていきたい。



きらやか銀行
営業本部 本業支援推進部
小林 祐介 副調査役

voice

お客さまの最高の笑顔を見るために

「お客さまの最高の笑顔が見たい」、これが本業支援に取り組む最大の理由です。

私たちは、お客さまの経営に対する必死さに応えるべく、同じ悩みを抱え、同じ汗を流し、同じ目標に向かって本業支援を行っています。

これからもお客さまとともに歩んでまいります。



きらやか銀行
東京支店
佐藤 広也 代理

voice

沿岸部の水産業復興を支援

東日本大震災の復興事業が本格化する今、お客さまが抱える課題は多種多様です。私は水産業経営アドバイザーとして、お客さまの復興ニーズを的確に把握・分析し、将来の水産業を見据えた事業計画の策定・実現を支援しています。復興に向けて、「あきらめない」精神で、水産業の復興と活性化に取り組んでいきます。



仙台銀行
地元企業応援部推進室
須藤 淳 主任
(水産業経営アドバイザー)

voice

みやぎの農業発展に貢献

宮城県の重要な基幹産業であり、私たちの生活基盤でもある「食」や「農業」を応援したいとの思いで農業経営アドバイザーの資格を取得しました。6次産業化など新たな経営基盤づくりを目指す農業経営者と一緒に考えて行動し、“みやぎ”の農業発展に一生懸命貢献してまいります。



仙台銀行
地元企業応援部企画室
田井 富士子
(農業経営アドバイザー)

宮城と山形をつなぎ 新たな商流形成を支援

じもとグループは、宮城と山形の「人・情報・産業」をつなぎ、お取引先の商機拡大を支援するなど、県境を超えた新たな商流形成に取り組んでおります。

両行の情報コーディネーターは、営業店から収集したビジネスニーズに関する情報を相互に共有・活用し、これまでに復興工事の共同事業者を求めている仙台銀行のお取引先に、きらやか銀行のお取引先をご紹介するなど、県境を超えたビジネスマッチングが多数成立しております。



ビジネスニーズを収集し両行で情報を共有化

両行の協調融資で 被災地の早期復興を積極支援

じもとグループは、被災地の早期復興を支援するため、被災地における大型設備再建に向けた大口資金需要に対しても、両行による協調融資等で積極的に支援しています。

これまでに両行は、震災で多くの高齢者向け介護施設が被災した石巻市に新たな介護施設を計画する企業に対して建設資金を協調融資で支援しました。

今後もグループの力を結集して、復興に取り組んでまいります。



被災地の介護施設を支援

じもとグループ合同企画第2弾！ 「東北の夏、じもとの夏」キャンペーン

きらやか銀行と仙台銀行は、グループ合同企画第2弾として、平成25年6月10日より「東北の夏、じもとの夏」キャンペーンを実施しております。

期間中に対象商品をご契約されたお客さまの中から抽選で200名様に、宮城・山形じまんの「朝ごはんセット」や「スイーツセット」をプレゼントいたします。また、先着1万名様にじもとホールディングスロゴ入りのオリジナルグラスをプレゼントしております。（平成25年8月16日まで）



クレジットカード・キャンペーン 収益金の一部を宮城県の復興へ寄付

じもとグループは、ユーシーカード（株）と共同で、「地元復興応援キャンペーン」（平成24年10月1日～12月31日）を開催し、提携クレジットカードの利用額に応じて、抽選で宮城・山形の特産品を利用者にプレゼントいたしました。

当キャンペーンの収益金の一部は、被災地復興に活用していただくため宮城県に寄付し、平成25年3月に宮城県庁で贈呈式が行われました。



宮城県庁での贈呈式

じもとホールディングス連結業績

(単位: 百万円)

	25年3月期
経常収益	33,838
経常利益	2,036
当期純利益	1,950

平成24年10月1日のじもとホールディングスの設立に際して、企業結合会計上の取得企業をきらやか銀行としたため、平成25年3月期の連結経営成績は、きらやか銀行の連結経営成績を基礎に、仙台銀行の平成24年10月1日から平成25年3月31日までの連結経営成績を連結したものとっております。

平成25年3月期の連結業績は、経常収益が338億38百万円、経常利益が20億36百万円、当期純利益が19億50百万円となりました。

きらやか銀行・仙台銀行(単体)の2行合算

(単位: 百万円)

	2行合算		
	24年3月期	25年3月期	前期比
経常収益	40,545	43,727	3,181
業務粗利益	31,816	33,937	2,120
経費(除く臨時処理分)	26,734	25,595	△1,139
業務純益	4,435	9,076	4,641
コア業務純益	6,237	7,835	1,597
経常利益	△6,615	3,573	10,189
当期純利益	△7,968	3,424	11,392
貸出金	1,443,449	1,489,194	45,745
預金等(譲渡性預金を含む)	2,054,198	2,205,421	151,222
有価証券	626,824	694,515	67,691

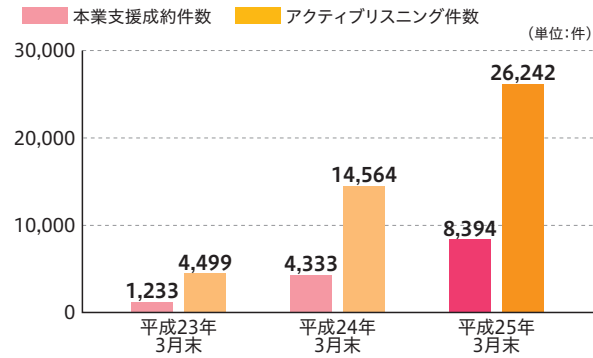
2行合算の経常収益は、前年同期比31億81百万円増加の437億27百万円となりました。

銀行の本業の収益力を表すコア業務純益は、役務取引等利益の増加や物件費の減少等により、前年同期比15億97百万円増加の78億35百万円となりました。

経常利益は前年同期比101億89百万円増加の35億73百万円、当期純利益は前年同期比113億92百万円増加の34億24百万円となりました。

きらやか銀行の本業支援

● 本業支援成約件数・アクティブリスニング件数累計

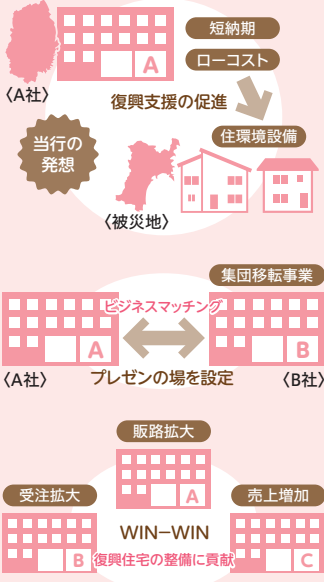
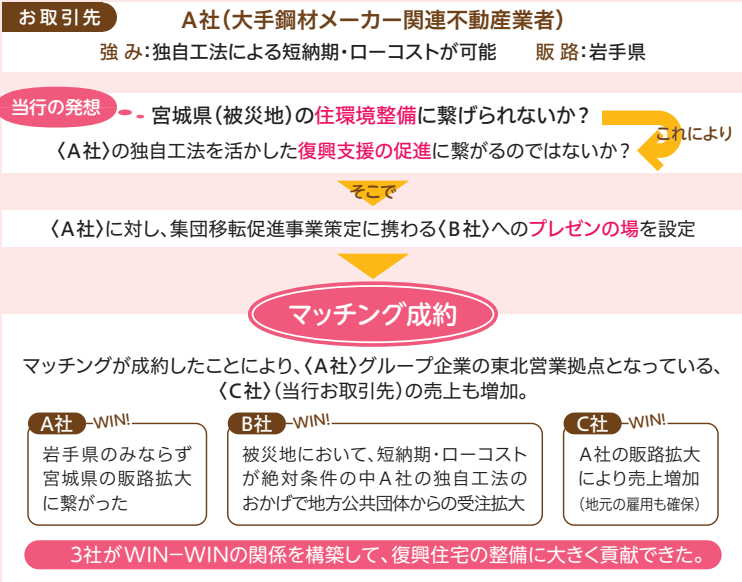


当行では、「本業支援」の本質は、経営者の方から、アクティブリスニング(企業の問題点・課題・悩みをお聴きし、共有する活動)を通してお聴きした事業ニーズを一緒に考え解決することで、お客さまに喜んでいただくことに考えております。このアクティブリスニングによる本業支援は、じもとグループとして当行及び仙台銀行の両行が長期的戦略として、全行員が組織的且つ継続的に取り組んでおります。

取り組み事例

被災地復興を手掛けるお取引先への本業支援

当行では、地域の皆さまと共に“活きる”を経営方針に掲げ、本業支援を組織的に展開しております。今回は、「被災地復興を手掛けるお取引先への本業支援」の事例をご紹介します。



トピックス

地域密着型金融に対する取り組みで顕彰

当行は、平成25年3月に、東北財務局より「平成24年度地域密着型金融に関する取り組み」で特に先進的でモデルとなる取り組みを行っている金融機関として顕彰されました。顕彰を受けたのは「アクティブリスニングによる本業支援」と「子会社を活用した事業再生支援への取り組み」です。当行はこれからも「地域の皆さまと共に“活きる”」を経営方針とし、地域経済の活性化に一層貢献するべく、お客さまから“もっともっと喜ばれる銀行”を目指してまいります。



東北財務局より顕彰

本業支援をさらに強化。4月に本部組織を改編

当行は、平成25年4月に、当行の営業施策の柱である「アクティブリスニングによる本業支援」を軸とした中小企業融資推進を強化するべく、営業推進部門を中心に、本部の組織改編を実施しました。また、仙台銀行との連携を強化し、仙山圏におけるお客さま同士の仲介機能を拡充するため、「仙台法人営業部」を新設しました。

今後も当行は、じもとグループの戦略であるじもと経済活性化に向けて取り組んでまいります。



新設した仙台法人営業部

地域の企業の皆さまと共に“活きる”本業支援 ホームページ特設サイト

当行では、地域の皆さまと共に“活きる”を経営方針とし、お客さまの経営課題を共有しながら共に解決する「本業支援」に取り組んでいます。

平成25年5月からのテレビCMでは、お客さまの実際の声を紹介し、当行が目指す「お客さまの想い」を形にする本業支援の取り組みを表現しています。また、ホームページに特設サイト「活きる」を開設し、これまでの当行の本業支援に対する取り組みを掲載しております。詳しくは、ホームページをご覧ください。

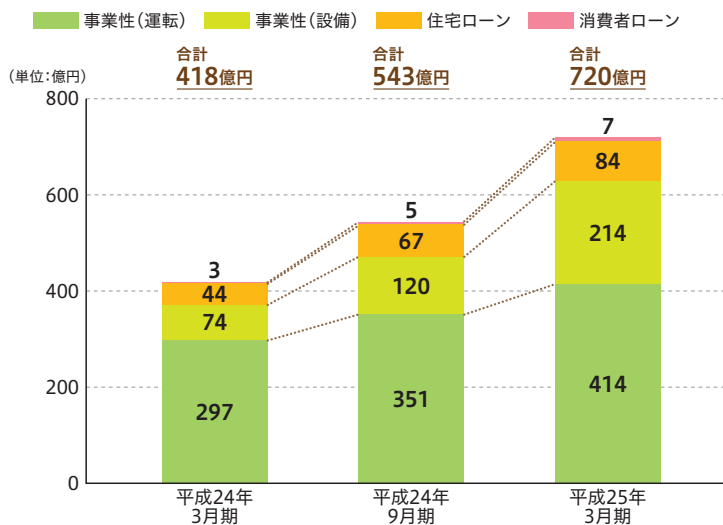
<http://www.kirayaka.co.jp/ikiru/>



きらやか銀行ホームページ「活きる」特設サイト

仙台銀行の本業支援

●被災者向け新規融資実行額累計



当行は、東日本大震災の発生直後から、被災されたお取引先の早期復興に向けて、様々な資金需要に積極的に取り組んでいます。平成25年3月末までの被災者向け新規融資実行額は2,948件720億円となりました。

また、中小企業診断士や不動産鑑定士、農業経営アドバイザー等が、多様な復興ニーズを踏まえ、きらやか銀行とも連携し、協調融資やDDS（既存債務の劣後ローン転換）等の資金支援、二重ローンご相談、アグリビジネス支援等に取り組んでいます。

取り組み事例

石巻・牡蠣養殖業者の「6次産業化」復興を支援

宮城県石巻市狐崎浜地区は、県内でも良質な牡蠣養殖産地でしたが、震災の津波により養殖施設や漁船が壊滅的な被害を受けました。

こうした中、被災した牡蠣養殖個人事業者6名が立ち上がり、自らの生産物を自らが加工・販売する6次産業化を目指した共同出資法人「宮城県狐崎水産6次化販売」を設立しました。

当行は、営業店と地元企業応援部（水産業経営アドバイザー）が連携し、事業計画策定をサポート、牡蠣加工場の建設資金と運転資金を融資しました。

当法人では牡蠣の出荷・販売を再開しており、この取り組みは、漁業復興の新たなビジネスモデル、被災地雇用の受け皿として期待が高まっています。



【企業概要】

企業名：株式会社宮城県狐崎水産6次化販売
事業内容：牡蠣等水産物の養殖・加工・販売
所在地：宮城県石巻市狐崎浜
設立年月日：平成24年7月5日

トピックス

復興支援に向けて被災店舗をリニューアル

● 大河原支店が新たにオープン

大河原支店（宮城県大河原町）は、震災で地震による被害を受けたことから、平成25年6月に同町内に移転のうえ、新築オープンしました。新店舗には、ゆとりある駐車スペースや各種相談コーナーを設け、お客さまの利便性をさらに高めました。

同じく被災した塩釜支店（宮城県塩釜市）と苦竹支店（仙台市宮城野区）についても現在新築建替え工事を進めており、平成25年度中にオープンする予定です。



新築オープンした大河原支店

● 被災地・南三陸町への店舗再出店を決定

当行は、本格化する沿岸部の復興をさらに支援するため、平成25年度内を目途に南三陸町志津川地区に新店舗を建設予定です。この新店舗には、震災後、町外で営業している志津川支店と歌津支店を移転・同居させ、南三陸町での窓口営業を再開する方針です。

また、国分町支店（仙台市青葉区）を平成25年9月に近隣の本店営業部内へ移転・統合する予定であり、これにより人材などの経営資源を復興支援に一層集中させる方針です。



塩釜支店完成予想図

新オンラインシステムが稼動。金融サービスをさらに充実

当行は、平成25年5月より、NTTデータが提供する地方銀行・第二地方銀行向けの共同センター「STELLA CUBE®」へ移行し、新オンラインシステムでの業務を開始しました。

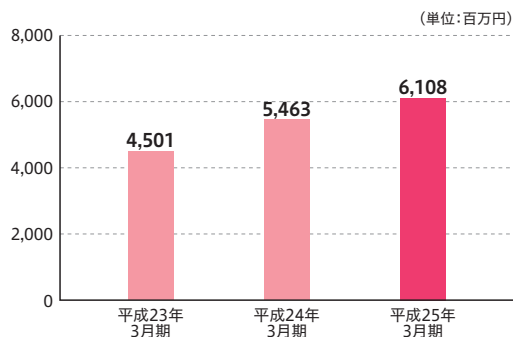
このシステムは、バックアップセンターや優れた拡張性を有しており、当行は、一層充実した金融サービスを安定的に提供してまいります。

なお、きらやか銀行も、平成27年5月に同システムへ移行する予定であり、じもとグループ全体での業務効率化を実現してまいります。

業績ハイライト(単体)

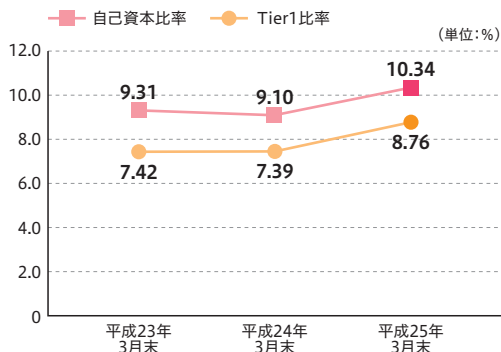
コア業務純益の状況

銀行の本業の収益力を表すコア業務純益は、資金利益が減少したものの、物件費の減少等により、前年同期比6億44百万円増加の61億8百万円となりました。



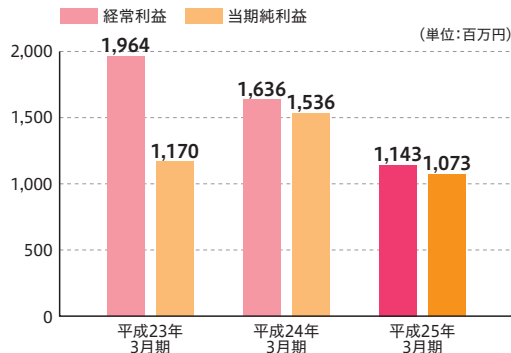
自己資本比率の状況

自己資本比率は、24年12月に震災特例の金融機能強化法に基づく資本増強を実施したことから、前年同期比1.24ポイント上昇の10.34%となりました。



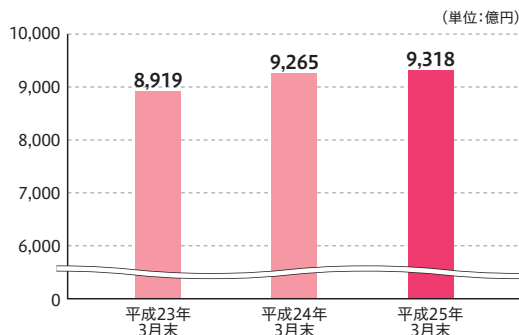
経常利益・当期純利益の状況

経常利益及び当期純利益は、事業再生専門子会社による積極的な企業支援に取り組み、子会社による個別貸倒引当金を前倒しで計上したため、それぞれ前年同期比4億92百万円減少の11億43百万円、前年同期比4億62百万円減少の10億73百万円となりました。



貸出金の状況

貸出金残高は、前年同期比52億73百万円増加の9,318億67百万円となりました。(事業再生専門子会社に移管しました貸出債権125億59百万円を考慮しますと、実質178億32百万円の増加となりました。)

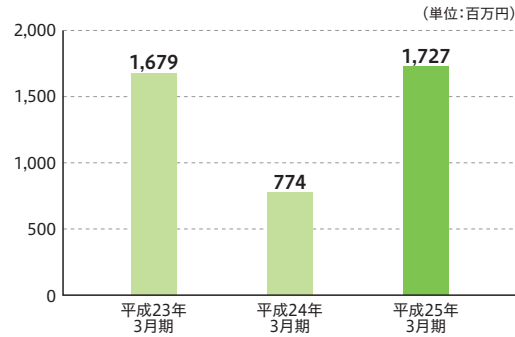


用語解説

■ コア業務純益 「業務純益」から「一般貸倒引当金繰入額」と「国債等債券損益」を除いたものです。分かりやすく言えば、資金運用収益と調達費用の差額である資金運用収支益と、送金手数料等の手数料収支から、営業経費を引いた、いわゆる銀行本業部分の収支益のことを指します。

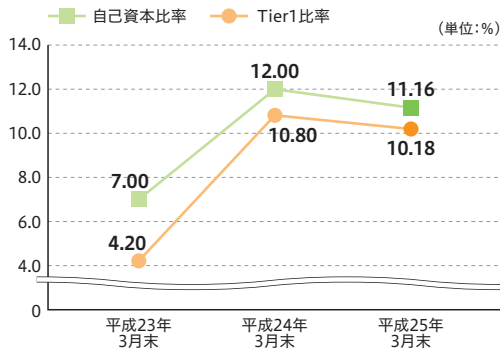
コア業務純益の状況

銀行の本業の収益力を表すコア業務純益は、資金利益及び役務取引等利益が増加したことや物件費が減少したことなどから、前年同期比9億52百万円増加の17億27百万円となりました。



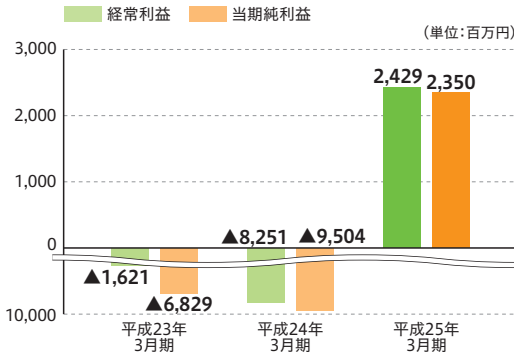
自己資本比率の状況

自己資本比率は、当期純利益23億50百万円の計上により自己資本額(分子)が増加した一方で、貸出金残高の増加に伴いリスクアセット(分母)が増加したことなどから、前年同期比0.84ポイント低下の11.16%となりました。



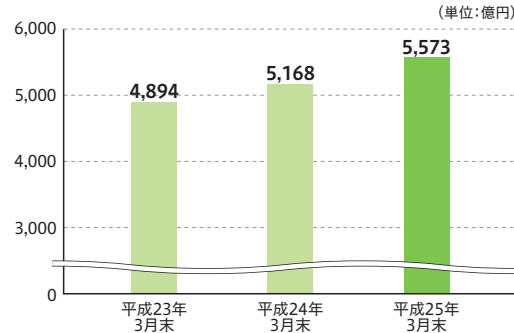
経常利益・当期純利益の状況

経常利益は、コア業務純益が増加したことや貸倒引当金戻入益21億30百万円を計上したことなどから、前年同期比106億81百万円増加の24億29百万円、当期純利益は、前年同期比118億55百万円増加の23億50百万円となりました。



貸出金の状況

貸出金残高は、震災復旧・復興に係る様々な資金需要に積極的に対応し、中小企業向け貸出残高が増加したことなどから、前年同期比404億71百万円増加の5,573億27百万円となりました。

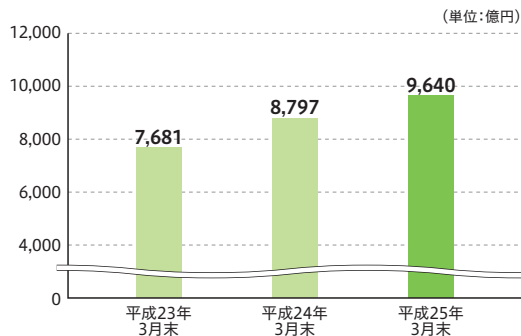


用語解説

■ コア業務純益 「業務純益」から「一般貸倒引当金繰入額」と「国債等債券損益」を除いたものです。分かりやすく言えば、資金運用収益と調達費用の差額である資金運用収支益と、送金手数料等の手数料収支から、営業経費を引いた、いわゆる銀行本業部分の収支益のことを指します。

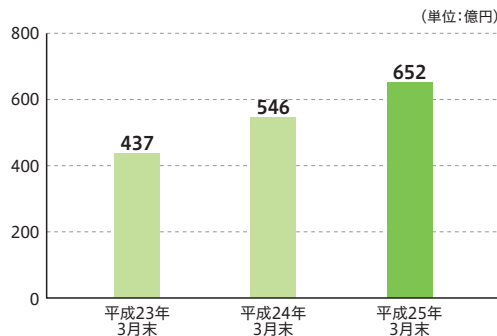
預金(譲渡性預金含む)の状況

預金残高は、被災者の住宅修繕など復興資金としての払出等により個人預金が減少しましたが、法人預金や公金預金が増加したことから、前年同期比843億3百万円増加の9,640億11百万円となりました。



預かり資産の状況

預かり資産残高は、営業店と資産運用サポートチームの販売強化により、生命保険残高が増加したことなどから、前年同期比106億37百万円増加の652億87百万円となりました。

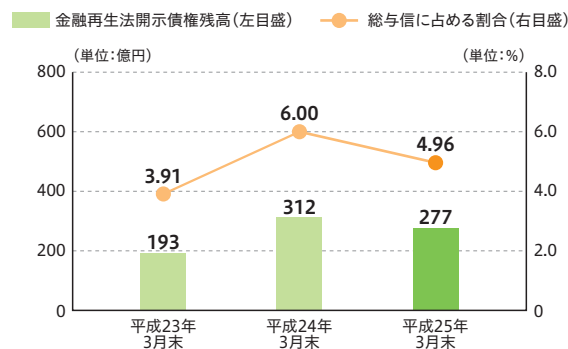


金融再生法開示債権の状況

平成25年3月末の金融再生法に基づく開示債権の残高は、前年同期比34億30百万円減少し、277億99百万円、総与信に占める割合は1.04ポイント低下の4.96%となりました。

今後も引き続き、お取引企業に対する財務内容改善等ノウハウの提供に係る経営支援、経営指導をこれまで以上に強化し、資産の健全化に努めてまいります。

金融再生法開示債権残高および総与信に占める割合



■ 経 常 利 益 「業務純益」から「株式売買損益」や「個別貸倒引当金繰入額」などの臨時損益を加減した利益を指します。
 ■ 当期純利益 「経常利益」に「特別利益」と「特別損失」、そして法人税等の税金を加減した利益を指します。

※金額は単位未満を切り捨てて表示しております。

株主の皆様へ

株式のご案内

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日までの1年といたします。
定時株主総会	毎年6月
単元株式数	100株
配当金受領株主確定日	3月31日および中間配当を行うときは9月30日。
基準日	定時株主総会については、3月31日といたします。その他必要があるときは、あらかじめ公告いたします。
公告方法	電子公告といたします。 【公告掲載ホームページアドレス】 http://www.jimoto-hd.co.jp/ ただし、やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞、仙台市において発行する河北新報および山形市において発行する山形新聞に掲載して行います。

株式事務取扱場所

株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号	みずほ信託銀行 株式会社
同事務取扱場所	東京都中央区八重洲一丁目2番1号	みずほ信託銀行 株式会社 本店証券代行部

	証券会社等に口座をお持ちの場合	証券会社等に口座をお持ちでない場合（特別口座の場合）
郵便物送付先	お取引の証券会社等になります。	〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4 みずほ信託銀行 証券代行部
電話お問合せ先		フリーダイヤル 0120-288-324（土・日・祝日を除く 9:00～17:00）
各種手続お取扱店 （住所変更、株主配当金 受取り方法の変更等）		みずほ証券 本店、全国各支店および営業所 プラネットブース（みずほ銀行内の店舗） みずほ信託銀行 本店および全国各支店
未払配当金のお支払		みずほ信託銀行 本店および全国各支店 みずほ銀行 本店および全国各支店 （みずほ証券では取次のみとなります）
ご注意	支払明細発行については、右の「特別口座の場合」の郵便物送付先・電話お問合せ先・各種手続お取扱店をご利用ください。	特別口座では、単元未満株式の買取・買増以外の株式売買はできません。証券会社等に口座を開設し、株式の振替手続を行っていただく必要があります。みずほ証券で単元未満株式の買増請求手続きをされる場合は、事前にみずほ信託銀行が指定する口座に送金していただく必要があります。

お問合せ先

みずほ信託銀行 株式会社

 0120-288-324

上場株式配当等の支払に関する通知書について

租税特別措置法の改正により、株主様に支払配当金額や源泉徴収税額等を記載した支払通知書を通知することとなっております。つきましては、支払通知書の法定要件を満たした配当金計算書を同封しておりますので、平成26年の確定申告の添付資料としてご使用ください。

なお、配当金を株式数比例配分方式によりお受け取りの場合、源泉徴収税額の計算は証券会社等にて行われますので、平成26年の確定申告の添付書類としてご使用いただける支払通知書につきましては、お取引の証券会社等へご確認ください。

株式会社 じもとホールディングス

〒980-0811 仙台市青葉区一番町二丁目1番1号
TEL.022-722-0011（代表）
<http://www.jimoto-hd.co.jp/>

株式会社 きらやか銀行

〒990-8611 山形市旅籠町三丁目2番3号
TEL.023-631-0001（代表）
<http://www.kirayaka.co.jp/>

株式会社 仙台銀行

〒980-8656 仙台市青葉区一番町二丁目1番1号
TEL.022-225-8241（代表）
<http://www.sendaibank.co.jp/>



見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォントを
採用しています。

平成25年6月発行